

平成20年11月20日

内閣総理大臣  
麻生 太郎 殿

### 麻生総理の発言に対する抗議

社団法人 日本医師会  
会長 唐澤 祥人

昨日開催された全国都道府県知事会議において、麻生総理は医師について「社会的常識がかなり欠落している人が多い」と発言された。

この発言は、特定の職業を名指しして、根拠なしに差別するものであり、激しい憤りを禁じえない。

全国の医師会員を代表して、また国民の一人として断じてこれを認めることはできない。総理には、発言を撤回し、誠意をもって謝罪をしていただきたい。

いま、医療現場は、常識では考えられないほどの過酷な労働環境にある。国民は、医療を受けられなくなるとの不安に怯え、救急、産科、小児科を中心に医療崩壊が現実化していることは、総理も認識されているはずである。

日本の医療は、医療現場の献身的な努力と、厳しい現状の中でも国民が医師をはじめとした医療関係者を信頼してくれることにより、ぎりぎりのところで持ちこたえられているのである。

こういう中であって、総理の発言は、日本の医療を根底から否定するものであり、国民を失望させた。

先般の二階経済産業大臣の発言に続き、国政を代表する立場にある総理のあまりにも認識を欠いた軽率な発言は、耐え難い環境で医療現場を懸命に守る医師の真摯な努力を踏みにじるものであり、奈落の底に突き落とされた思いである。

このままでは、日本の医療の再生はますます困難になる。

総理自身が熟考された上で、あやまちを認め、認識をあらためられることを強く求める。